

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成25年10月1日
(第68期) 至 平成26年9月30日

IMV 株式会社

(E02352)

第68期（自平成25年10月1日 至平成26年9月30日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し、提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

IMV 株式会社

目 次

	頁
第68期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	7
第2 【事業の状況】	8
1 【業績等の概要】	8
2 【生産、受注及び販売の状況】	9
3 【対処すべき課題】	11
4 【事業等のリスク】	12
5 【経営上の重要な契約等】	12
6 【研究開発活動】	13
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	15
第3 【設備の状況】	18
1 【設備投資等の概要】	18
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	19
第4 【提出会社の状況】	20
1 【株式等の状況】	20
2 【自己株式の取得等の状況】	22
3 【配当政策】	23
4 【株価の推移】	23
5 【役員の状況】	24
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	26
第5 【経理の状況】	33
1 【連結財務諸表等】	34
2 【財務諸表等】	58
第6 【提出会社の株式事務の概要】	71
第7 【提出会社の参考情報】	72
1 【提出会社の親会社等の情報】	72
2 【その他の参考情報】	72
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	73
監査報告書	
内部統制報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年12月22日

【事業年度】 第68期(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 I M V株式会社

【英訳名】 I M V C O R P O R A T I O N

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡 本 二 朗

【本店の所在の場所】 大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号

【電話番号】 06-6478-2565(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画本部長代行 濱 里 一 也

【最寄りの連絡場所】 大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号

【電話番号】 06-6478-2565(代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画本部長代行 濱 里 一 也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
I M V株式会社東京営業所
(東京都港区浜松町二丁目1番5号 クレトイシビル4階)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成22年 9月	平成23年 9月	平成24年 9月	平成25年 9月	平成26年 9月
売上高 (千円)	4,223,896	4,690,877	5,900,074	6,119,313	7,863,590
経常利益 (千円)	405,807	351,816	658,764	726,395	1,244,513
当期純利益 (千円)	356,217	182,847	360,490	448,877	713,478
包括利益 (千円)	—	184,909	366,065	466,107	725,638
純資産額 (千円)	2,249,332	2,401,552	2,702,237	3,086,117	3,729,963
総資産額 (千円)	7,078,706	6,516,465	7,537,350	7,762,797	9,351,658
1株当たり純資産額 (円)	137.62	146.93	165.32	188.83	228.22
1株当たり当期純利益金額 (円)	21.79	11.19	22.05	27.46	43.65
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	31.8	36.9	35.9	39.8	39.9
自己資本利益率 (%)	17.1	7.9	14.1	15.5	20.9
株価収益率 (倍)	4.9	11.2	8.8	14.8	13.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	814,698	378,093	788,642	261,275	463,003
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	199,484	138,124	△411,030	△170,399	△313,474
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△559,386	△945,147	△127,543	57,027	203,071
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,100,093	670,574	921,920	1,111,550	1,487,349
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	162 (32)	161 (34)	171 (42)	181 (39)	182 (41)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は就業人員数であります。

4 従業員数欄の(外書)は臨時従業員数の年間平均雇用者数であります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成22年 9 月	平成23年 9 月	平成24年 9 月	平成25年 9 月	平成26年 9 月
売上高 (千円)	4,160,602	4,603,730	5,902,655	6,007,232	7,564,360
経常利益 (千円)	398,621	348,986	694,598	769,669	1,286,235
当期純利益 (千円)	346,593	179,222	419,041	491,962	729,923
資本金 (千円)	464,817	464,817	464,817	464,817	464,817
発行済株式総数 (株)	16,957,016	16,957,016	16,957,016	16,957,016	16,957,016
純資産額 (千円)	2,096,319	2,244,896	2,605,232	3,027,225	3,690,220
総資産額 (千円)	6,880,671	6,308,347	7,325,945	7,575,515	9,158,679
1株当たり純資産額 (円)	128.25	137.34	159.39	185.22	225.79
1株当たり配当額 (1株当たり 中間配当額) (円)	2.00 (—)	4.00 (—)	5.00 (—)	5.00 (—)	6.00 (—)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	21.2	10.96	25.64	30.10	44.66
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	30.5	35.6	35.6	40.0	40.3
自己資本利益率 (%)	17.9	8.3	17.3	17.5	21.7
株価収益率 (倍)	5.0	11.4	7.6	13.5	13.1
配当性向 (%)	9.4	36.5	19.5	16.6	13.4
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (名)	133 (26)	134 (29)	140 (35)	145 (32)	144 (34)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は就業人員数であります。

4 従業員数欄の(外書)は臨時従業員数の年間平均雇用者数であります。

5 第66期の1株当たり配当額5円には、設立55周年記念配当1円を含んでおります。

2 【沿革】

- 昭和32年4月 株式会社国際機械振動研究所(現IMV株式会社)を設立
本社：大阪市北区旅籠町 東京支社(現東京営業所)：東京都港区西新橋
名古屋営業所：名古屋市中区新栄町
- 昭和32年10月 大阪工場を兵庫県伊丹市天津藤ノ木に設置
- 昭和35年8月 東京工場を東京都八王子市中野町に設置
- 昭和39年7月 東京工場を神奈川県津久井郡藤野町に移転
- 昭和46年1月 東京営業所を東京都千代田区三崎町に移転
- 昭和49年10月 会社更生法を申請
更生管財人として小嶋成夫(現代表取締役会長)が就任し、会社再建を開始
- 昭和55年7月 本社を大阪市北区茶屋町に移転
- 昭和60年7月 会社更生手続終結
- 昭和62年4月 社名をアイエムブイ株式会社に商号変更
- 平成6年9月 日東精機株式会社(現連結子会社)の株式を取得して、同社を100%子会社とする
- 平成9年12月 名古屋営業所を名古屋市東区泉に移転
- 平成15年1月 社名をIMV株式会社に商号変更
- 平成17年5月 本社、大阪工場及び連結子会社である日東精機株式会社を大阪市西淀川区竹島に移転
- 平成17年7月 ジャスダック証券取引所に株式を上場
- 平成19年9月 名古屋テストラボを愛知県加茂郡三好町に開設及び名古屋営業所を移転
- 平成21年3月 鉄道車両用テストラボを大阪市西淀川区竹島に開設
- 平成21年12月 株式会社データ・テクノ(現連結子会社)の株式を取得して、同社を100%子会社とする
- 平成22年4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
- 平成23年10月 IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTREを英国に設置
- 平成23年11月 IMV (THAILAND) CO., LTD. (現連結子会社)を設立
- 平成25年2月 IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTREを法人化し、IMV EUROPE LIMITED(現連結子会社)を設立
- 平成25年7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場

3 【事業の内容】

当社グループは、主に振動シミュレーションシステム、メジャリングシステムの製造・販売を行っております。また、テスト&ソリューションサービスとして振動試験を受託しております。

当社グループに関する事業の種類別セグメントについては、その事業全てが「振動に関する事業」であり、「振動に関する単一セグメント」としております。なお、当社グループの事業部門を品目別に記載しますと次のとおりであります。

(1) 振動シミュレーションシステム

振動シミュレーションシステム（振動試験装置）及びオールウェザーシミュレーションシステム（複合環境試験装置）の製造・販売及びこれらの修理・保守を行っております。連結子会社である日東精機株式会社では主に当社製品の組立・加工を行っております。また、IMV (THAILAND) CO., LTD. がASEAN地域で、IMV EUROPE LIMITEDが欧州地域で、販売及びこれらの修理・保守を行っております。

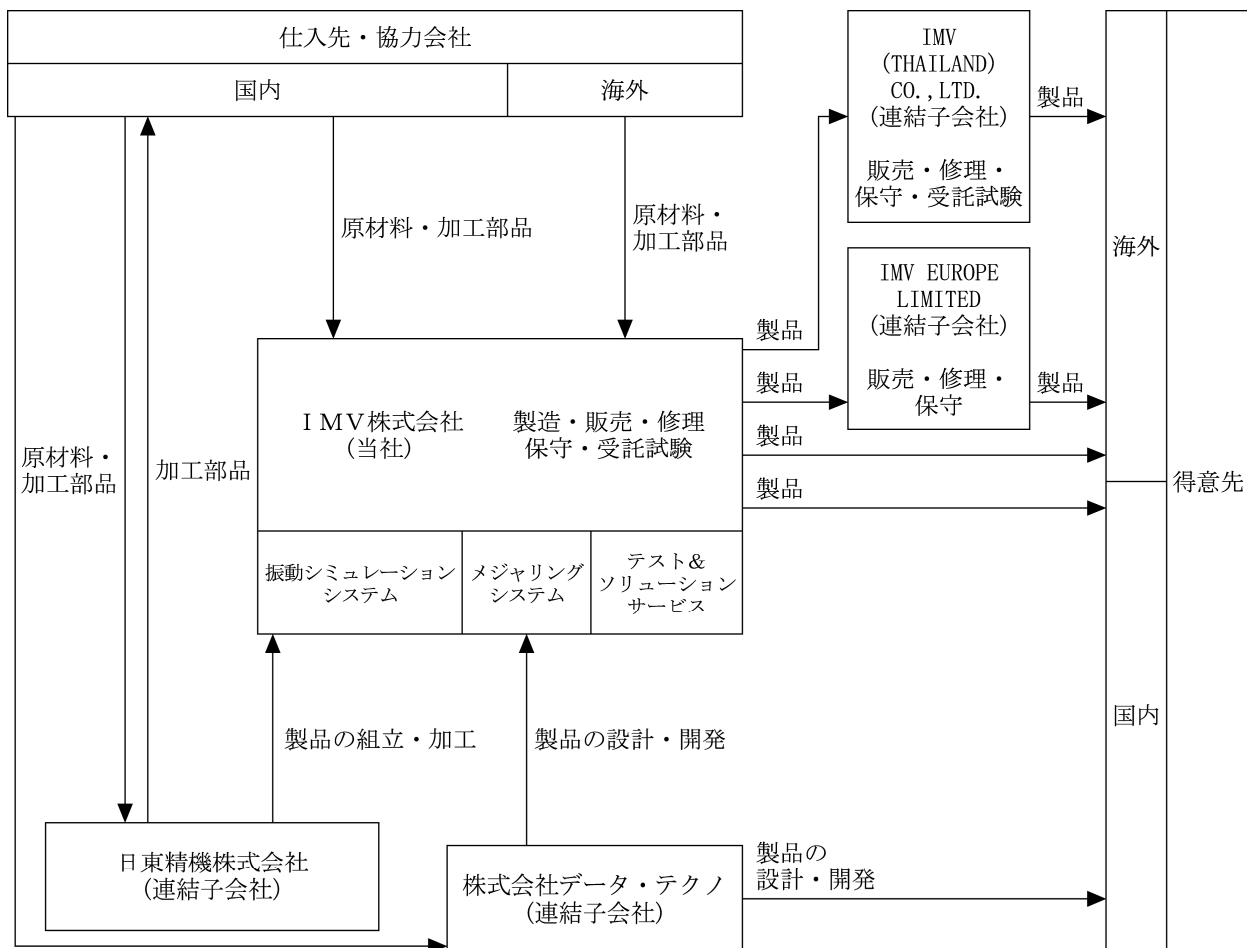
(2) メジャリングシステム

メジャリングシステム（振動計測装置、振動監視装置、地震監視装置及び環境信頼性評価システムを含む）の製造・販売及びこれらの修理・保守を行っております。これらは主に地震や工業機械の磨耗又は劣化による異常振動を感知し、地震による二次災害の防止や予知保全の分野で用いられるものであります。連結子会社である株式会社データ・テクノでは当社を含め複数の企業から製品の設計・開発を受託しております。

(3) テスト&ソリューションサービス

上記製品の製造・販売以外に受託試験を行っております。これらは顧客からの振動試験及び解析要請を受け、行っているものであります。当該事業は当社が国内で行っており、連結子会社であるIMV (THAILAND) CO., LTD. がタイにて行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 日東精機株式会社は、部品を協力会社及び得意先に販売しておりますが、軽微であるため記載を省略しております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 日東精機株式会社(注)	大阪市西淀川区	10,000千円	各種機械の組立・加工	100.0	従業員の兼任3名 主に当社製品の組立・加工をしております。
(連結子会社) 株式会社データ・テクノ	京都市下京区	29,000千円	電子工業用機器の開発製造	100.0	従業員の兼任2名 当社の製品の開発をしております。
(連結子会社) IMV (THAILAND) CO., LTD. (注)	Thailand	40,000千バーツ	試験装置の販売、修理、保守及び受託試験	100.0	従業員の兼任1名 当社の製品の販売をしております。
(連結子会社) IMV EUROPE LIMITED	United Kingdom	200,000ユーロ	試験装置の販売、修理、保守	100.0	従業員の兼任3名 当社の製品の販売をしております。

(注) 特定子会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

当社グループの事業は単一セグメントであり、セグメント情報を記載していないため、部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

平成26年9月30日現在

区分	製造部門	販売部門	管理部門	合計
従業員数(名)	132(35)	38(4)	12(2)	182(41)

(注) 1 従業員数は就業人員数であり、従業員数欄の(外書)は臨時従業員の最近1年間の平均雇用人員であります。
2 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。

(2) 提出会社の状況

平成26年9月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
144(34)	41.4	13.9	6,695

(注) 1 従業員数は就業人員数であり、従業員数欄の(外書)は臨時従業員の最近1年間の平均雇用人員であります。
2 平均年間給与は賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。

(3) 労働組合の状況

当社には下記の労働組合が組織されており、当社と労働組合との関係は労使協調体制で円満に推移しております。

名称：JAM IMV労働組合

(JAM: Japanese Association of Metal, Machinery, and Manufacturing Workers)

組合員数：84名(平成26年9月30日現在)

上部団体：連合

なお、連結子会社である日東精機株式会社、株式会社データ・テクノ、IMV (THAILAND) CO., LTD. 及びIMV EUROPE LIMITEDにおいては、労働組合は組織されておられません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動があったものの、企業による設備の維持・更新やエネルギー効率や生産効率を高めるための設備投資や雇用情勢に改善が見られたことにより、緩やかな回復基調が続いております。

このような環境の中、当社グループは、イギリス、ドイツをはじめとした欧州諸国において、振動シミュレーションシステムの販売活動のさらなる強化に取り組んでまいりました。また、新たな技術の開発につきましては、当社の主力製品であるiシリーズの後継機として「新型振動シミュレーションシステムAシリーズ」、及び高精度・多用途向け3軸加速度センサーモジュールを搭載した「小型高性能振動計測装置」を開発いたしました。

業績面につきましては、振動シミュレーションシステム及びテスト&ソリューションサービスにおいて、自動車関連業界・航空宇宙関連業界を中心に順調に売上が推移し、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、当社グループの売上高は7,863百万円となり、前連結会計年度と比べ1,744百万円の増収(対前年同期比28.5%増)となりました。利益面では増収効果により経常利益は1,244百万円となり前連結会計年度と比べ518百万円の増益(対前年同期比71.3%増)となり、当期純利益は713百万円となり前連結会計年度と比べ264百万円の増益(対前年同期比58.9%増)となりました。

品目別の営業の概況は次のとおりであります。

① 振動シミュレーションシステム

振動シミュレーションシステムの分野におきましては、自動車関連業界を中心に温湿度・振動複合環境シミュレーションシステム及び「エコシェーカー」(省エネ型振動シミュレーションシステム)の売上が依然として順調であり、欧州や中国向けの振動シミュレーションシステムの売上も増加しました。また、航空宇宙関連業界において大型案件の売上を計上したこと等により、前年同期を上回る結果となりました。

以上の結果、この品目の売上高は5,678百万円となり前連結会計年度と比べ1,570百万円の増収(対前年同期比38.2%増)となりました。

② メジャリングシステム

メジャリングシステムの分野におきましては、中国・台湾へ地震監視装置及びベトナムへ振動計測装置の販売を行う等、販路拡大に向けた活動を行いました。国内における高額な多チャンネル仕様の製品の伸び悩みにより、売上高につきましては、前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、この品目の売上高は860百万円となり前連結会計年度と比べ93百万円の減収(対前年同期比9.8%減)となりました。

③ テスト&ソリューションサービス

テスト&ソリューションサービスの分野におきましては、東京テストラボにおいては、前連結会計年度に耐震試験を設備増強したほか、大型試験機による受託試験が順調に推移いたしました。大阪テストラボにおいては、建機関連業界を中心とした大型試験機による受託試験、鉄道車両用機器向けの試験が順調に推移しました。また、名古屋テストラボにおいては、自動車関連業界におけるHV・EV関連等の試験が引き続き好調でありました。

以上の結果、この品目の売上高は1,324百万円となり前連結会計年度と比べ267百万円の増収(対前年同期比25.3%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度の現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前連結会計年度末に比べ375百万円増加し、1,487百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動で取得した資金は前連結会計年度と比べ201百万円増加し、463百万円となりました。これは、税金等調整前当期純利益1,199百万円、減価償却費205百万円及び仕入債務の増加247百万円等の資金の増加要因が、売上債権の増加1,045百万円等の資金の減少要因を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動で使用した資金は前連結会計年度と比べ143百万円増加し、313百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出281百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動で取得した資金は前連結会計年度と比べ146百万円増加し、203百万円となりました。これは、短期借入金の純増額350百万円等による増加要因が、配当金の支払いによる支出81百万円等による減少要因を上回ったことによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループの事業は単一セグメントでありセグメント情報を記載していないため、品目別に記載しております。

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)	
	生産高(千円)	前期比(%)
振動シミュレーションシステム	5,675,203	137.3
メジャリングシステム	863,979	91.3
テスト&ソリューションサービス	1,257,118	113.4
合計	7,796,301	126.0

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)			
	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
振動シミュレーションシステム	6,079,170	136.9	2,764,394	116.9
メジャリングシステム	853,933	96.8	102,995	94.1
テスト&ソリューションサービス	1,282,704	117.5	160,898	79.5
合計	8,215,808	128.1	3,028,289	113.2

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)	
	販売高(千円)	前期比(%)
振動シミュレーションシステム	5,678,995	138.2
メジャリングシステム	860,400	90.2
テスト&ソリューションサービス	1,324,194	125.3
合計	7,863,590	128.5

(注) 1 金額は販売価格によっております。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社守谷商会	—	—	1,222,530	15.6

(注) 1 前連結会計年度においては、販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10以上の相手先がないため、記載を省略しております。

2 株式会社守谷商会は、当社の販売代理店であります。

3 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループは、長年にわたり振動に係る試験装置や計測装置の開発・製造・販売を行い、また振動問題に対するコンサルティング等も実施することで、総合環境シミュレーション業界のリーディングカンパニーとして確固たる地位を確立しておりますが、さらなる事業成長と顧客満足の向上のために、以下の7項目を重要課題として認識し、対応してまいります。

(1) 生産体制

当社グループは協力会社を含めた生産技術の革新と計測技術の確立に取組み生産機能の強化を図っております。これにより製品品質を確保し、競争力のあるコストとリードタイムの実現を行ってまいります。

(2) コスト削減

当社グループは重要部品を除く多くの部品を外注委託する生産形態をとっているため、パートナーも含めたサプライチェーン全体でのコストダウンが重要となります。設計段階からパートナーの意見を取り入れることで、低コストで効率的に生産可能な製品の設計に努めてまいります。

(3) 人材育成

海外子会社及び海外駐在員事務所設立等により、当社グループにおいてもグローバル市場で活躍ができる人材の確保が課題となっております。そのため現有人員への語学教育や海外経験の豊富な人材のリクルート活動を強化してまいります。また、リーダーシップと積極性を兼ね備えた人材育成のため能力開発教育を積極的に行ってまいります。

(4) 研究開発体制

振動試験・計測・解析分野における近未来的ビジョンを実現させるべく研究開発体制を強化し、内外の研究機関と連携した研究開発を推進してまいります。さらに、振動シミュレーションシステムとメジャリングシステムの研究開発機能を大阪に一元化することにより、相乗効果を追求した新たな製品開発を推進してまいります。

(5) 管理体制

上場企業として、タイムリーに正確な情報を開示することに留まらず、今後要求される国際会計基準への対応準備や、保有資産の有効活用に係る戦略立案等のために管理部門の体制強化を図ってまいります。

(6) 新規事業

既存市場は成熟傾向にあるため、持続可能な成長のためには新規事業分野への展開が不可欠となっております。有力企業との提携等を通じて研究開発やマーケティングの機能を強化してまいります。

(7) 海外展開

自動車関連業界を中心に生産体制だけでなく、開発体制も含めた海外シフトが進んでおります。当社グループの製品は研究開発段階で使用されることが多いため、今後は海外での売上が伸張していくものと想定しており、現地企業と共同で販売・サービス・生産体制の構築を進めてまいります。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資家の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、当社の株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) 生産における外注先の活用等について

当社グループでは製品製造にあたり製品の心臓部にあたる部品や工程は、振動シミュレーションシステムについては連結子会社を含めた当社グループ工場、メジャリングシステムについては当社工場内で内製化しており、また、当社工場において、外注委託先から仕入れた部品の受入検査、部品組立、出荷検査を行っております。内製化する必要がない部品・工程に関しては、外注先を積極的に活用する方針としており、当社が策定した設計に則りその多くを外注委託しております。当社は、原則、外注委託先を複数確保し、調達リスクの軽減に努めておりますが、仮に外注先からの調達に支障が生じるなどの事態が生じた場合においては、当社グループの納期管理や品質管理等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 本社・生産拠点の取得に伴う有利子負債残高の増加について

当社グループは、平成17年5月に現在の本社・工場に移転し、平成21年3月に鉄道車両機器向け新受託試験施設を開設、平成23年11月にタイに海外子会社のIMV (THAILAND) CO., LTD. を設立いたしました。これらの購入資金は金融機関等からの借入れによるものであり、今後の金利負担の増加要因となる可能性があります。

(3) 季節変動について

当社グループの売上高は、販売先の予算執行等の事情により、3月度及び9月度に集中する傾向があり、第2四半期及び第4四半期の業績が他の四半期に比し、上回る傾向にあります。今後、官公庁向けの販売比率の増加によっては、こうした傾向が強まる可能性もあります。また、大型案件を計上するタイミングによっては、月次変動要因となる可能性があります。なお、振動シミュレーションシステムの検収遅延等によっては、期ずれにより経営成績の変動要因となる可能性があります。

(4) 内需の回復について

当社グループは、国内売上の比率が高く当連結会計年度において全体の約80%を占めております。このため、海外での売上拡大を積極的に進め、かつ国内においては次世代エネルギーや電気自動車等の新たな試験需要への対応を進めておりますが、既存の自動車産業等における内需の回復が想定よりも遅れた場合には、経営成績の変動要因となる可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 協同開発契約

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約期間
IMV株式会社 (当社)	IC Consultants Limited (英国)	次世代振動試験システムの開発	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日 (書面確認により契約更新)

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約期間
IMV株式会社 (当社)	IMDEA Energy (スペイン)	次世代振動試験システムの開発	自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日 (書面確認により契約更新)

6 【研究開発活動】

当社は開発型企業として顧客のニーズに応えるべく、各装置において積極的に研究開発活動に取り組んでおります。継続的な新製品・新技術の研究開発活動には大別して振動試験技術と振動計測技術があります。当連結会計年度の研究開発費の総額は484百万円であります。

なお、当社グループの事業は単一セグメントであり、セグメント情報を記載していないため、品目別に記載しております。

また、研究開発活動は当社が一括して行っているため、連結子会社における研究開発活動は行っておりません。

主な研究開発テーマとその内容は以下のとおりであります。

(1) 振動シミュレーションシステム

① 次世代振動シミュレーションシステム

新シリーズの開発を行っております。現在の主力シリーズの機能、性能をさらにパワーアップさせるとともに、価格面での競争力を向上させた商品を開発しております。単なる後継機種的设计ではなく、試験用途の範囲拡大、使い勝手の向上等、オプションを含めた数多くのユニットを、今までの設計手法とは異なった新しい概念で再設計しております。第68期は、第一弾として3機種の新製品を市場に投入いたしました。

当連結会計年度における研究開発費の金額は84百万円であります。

② 省エネ型振動シミュレーションシステム

環境問題は、大きな電力を使用する振動シミュレーションシステムにとっても例外ではなく大きな課題であります。弊社では、省エネ型振動シミュレーションシステムの開発に成功し、「エコシェーカー」として既に販売しており、その販売台数は年々増加の傾向をたどっておりますが、さらなるエコ機能の充実化のために開発を進めております。具体的には、エコ効率の改善、既設試験装置（他社試験装置含む）へのエコ機能追加等をテーマとして取り組んでおります。

当連結会計年度における研究開発費の金額は11百万円であります。

③ CEマーキングへの適合活動

EU（ヨーロッパ圏）市場での販売実績が大きく伸びてきております。この市場では、ターゲット機種を絞り戦略的に販売してまいりましたが、今後の拡販活動を推進していく上で、新たに大型機種の市場投入の必要性が高まってきております。周知のとおり、EU市場での装置販売には、「CEマーキング適合」は必須であり、今回、市場投入する大型機種に対してもCEマーキング適合を検討・実施する必要があります。なお、大型機種の市場投入の時期に関しましては、「順次供給」として進めてまいります。

当連結会計年度における研究開発費の金額は25百万円であります。

④ 振動制御器

海外市場への拡販を目的として、弊社主力の振動制御器K2をリニューアルいたしました。

具体的には、海外でのニーズに対応した機能の追加、使い勝手の向上をテーマとしております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は9百万円であります。

(2) メジャリングシステム

① 地震計

地震が多発するわが国では、社会インフラの整備と平行して防災対策は重要な課題の一つであります。当社では、小型高精度化、加速度計測+計測震度への対応、実被害に対応したS I 値計測+S I 値警報、I S D N通信網からI P (L A N・W A N)対応等、地震計に求められる市場ニーズの変化に追随すべく新しい地震計の開発を進めており、「地震ウォッチャー」ブランドの育成に取り組んでおります。当連結会計年度では、地震計のセンサ部分の量産評価を実施し、特性上問題ないことを確認いたしました。今後は製品として市場投入していく予定であります。また、小型高性能な加速度センサの試作にも成功いたしました。橋梁やビルといった社会インフラのヘルスマonitoringへの適用をめざし、来年度に製品リリースする予定であります。

当連結会計年度における研究開発費の金額は100百万円であります。

② 高温加速度センサ

当連結会計年度では、先の会計年度より進めておりました高温センサの基本特性を確認し、通常の加速度センサと問題ないレベルであることを確認いたしました。今後、ケーシングを含めた試作を実施し、実証試験を進める予定であります。

当連結会計年度における研究開発費の金額は13百万円であります。

③ 無線LANを用いたポータブル型振動計

Tablet PCでの動作を可能にした第2世代の無線型振動計測器の拡販を進めるとともに、海外企業へのOEM供給を開始いたしました。OEM供給先へのソフトウェア等のカスタマイズの実施と当社製品に対するソフトウェアの改良等を随時行っております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は30百万円であります。

④ 要素技術開発

Liイオン二次電池等の劣化診断手法に関し、山形大学との共同研究を進めております。また、それ以外にも東京電機大学や東京工業大学といった外部機関とも振動・音響計測に関連した技術開発の共同研究を進めております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は7百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針

当社グループの連結財務諸表はわが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。当社グループの連結財務諸表の作成にあたっては、期末における資産、負債の報告数値及び偶発債務の開示並びに収益、費用の報告数値に影響を与える見積り、判断及び仮定を行うことが必要となります。当社は連結財務諸表作成の基礎となる見積り、判断及び仮定を過去の経験や状況に応じ合理的と判断される入手可能な情報により継続的に検証し、意思決定を行っております。しかしながら、これらの見積り、判断及び仮定は不確実性を伴うため、実際の結果と異なる場合があります。この差異は当社グループの連結財務諸表に影響を及ぼす可能性があります。当社が現在において、見積り、判断及び仮定により当社グループの連結財務諸表に重要な影響を及ぼすと考えている項目は次のとおりであります。

① 貸倒引当金

当社は債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒引当金を計上しております。取引先の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要となる可能性があります。

② 製品保証引当金

当社は販売済製品の無償補修費の支出に備えるため、製品保証引当金を計上しております。過去の補修率を基礎にして算出した保証期間内の無償補修費の見込額を計上しておりますが、実際の補修率が過去の補修率を上回った場合、追加費用の計上が必要となる可能性があります。

③ 繰延税金資産

当社グループは繰延税金資産について、回収可能性があると考えられる金額を計上しております。回収可能性を検討する際、将来の課税所得と実現可能なタックス・プランニングを考慮しております。将来の課税所得の見積りの変動等により、将来において繰延税金資産計上額が増減する可能性があります。

(2) 経営成績の分析

① 売上高

売上高は、前連結会計年度と比べ28.5%増の7,863百万円となりました。

振動シミュレーションシステムの分野におきましては、自動車関連業界を中心に温湿度・振動複合環境シミュレーションシステム及び「エコシユーカー」(省エネ型振動シミュレーションシステム)の売上が依然として順調であり、欧州や中国向けの振動シミュレーションシステムの売上も増加しました。また、航空宇宙関連業界において大型案件の売上を計上したこと等により、前連結会計年度と比べ38.2%増の5,678百万円となりました。

メジャリングシステムの分野におきましては、中国・台湾へ地震監視装置及びベトナムへ振動計測装置の販売を行う等、販路拡大に向けた活動を行いました。国内における高額な多チャンネル仕様の製品の伸び悩みにより、前連結会計年度と比べ9.8%減の860百万円となりました。

テスト&ソリューションサービスの分野におきましては、東京テストラボにおいては、前連結会計年度に耐震用試験を設備増強したほか、大型試験機による受託試験が順調に推移いたしました。大阪テストラボにおいては、建機関連業界を中心とした大型試験機による受託試験、鉄道車両用機器向けの試験が順調に推移しました。また、名古屋テストラボにおいては、自動車関連業界におけるHV・EV関連等の試験が引き続き好調であったことにより、前連結会計年度と比べ25.3%増の1,324百万円となりました。

② 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、売上高の増加により、前連結会計年度と比べ24.0%増の4,769百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費51百万円の増加及び研究開発費190百万円の増加等により、前連結会計年度と比べ17.3%増の1,905百万円となりました。

③ 営業利益

営業利益は、売上原価並びに販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高の増加により、前連結会計年度と比べ83.6%増の1,188百万円となりました。

④ 経常利益

経常利益は、前連結会計年度と比べ71.3%増の1,244百万円となりました。営業外損益は55百万円の利益(純額)(前連結会計年度は78百万円の利益(純額))となりました。主な変動要因は、受取家賃の増加及び為替差益の減少であります。

⑤ 特別損益

特別損益は、45百万円の損失(前連結会計年度は4百万円の損失)となりました。主な変動要因は、減損損失43百万円であります。

⑥ 当期純損益

税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度と比べ66.2%増の1,199百万円となり、法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額は485百万円(前連結会計年度は272百万円(純額))となりました。以上の結果、当期純利益は、前連結会計年度と比べ58.9%増の713百万円となりました。また、1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の27円46銭に対し、43円65銭となりました。

(3) 財政状態の分析

① 資産

当連結会計年度末における資産は、前連結会計年度末と比べ1,588百万円増加し、9,351百万円(対前期末比20.5%増)となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比べ1,468百万円増加し、6,295百万円(対前期末比30.4%増)となりました。この主な要因は、現金及び預金の増加383百万円及び受取手形及び売掛金の増加1,049百万円があったことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末と比べ120百万円増加し、3,056百万円(対前期末比4.1%増)となりました。この主な要因は、土地の取得等による有形固定資産の増加57百万円があったことによるものであります。

② 負債

当連結会計年度末における負債は、前連結会計年度末と比べ945百万円増加し、5,621百万円(対前期末比20.2%増)となりました。流動負債は、前連結会計年度末と比べ967百万円増加し、4,766百万円(対前期末比25.5%増)となりました。この主な要因は、1年内返済予定の長期借入金の減少40百万円があったものの、支払手形及び買掛金の増加308百万円、短期借入金の増加350百万円及び未払法人税等の増加221百万円があったことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末と比べ22百万円減少し、855百万円(対前期末比2.6%減)となりました。この主な要因は、長期借入金の減少24百万円であります。

③ 純資産

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末と比べ643百万円増加し、3,729百万円(対前期末比20.9%増)となりました。この主な要因は、利益剰余金の増加631百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比べ0.1ポイント増加し39.9%となりました。1株当たり純資産は前連結会計年度末の188円83銭に対し、228円22銭となりました。

(4) 流動性及び資金の源泉

① キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、463百万円のキャッシュが増加(前連結会計年度は261百万円増加)しました。これは、税金等調整前当期純利益1,199百万円、減価償却費205百万円及び仕入債務の増加247百万円等の資金の増加要因が、売上債権の増加1,045百万円等の資金の減少要因を上回ったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、313百万円のキャッシュが減少(前連結会計年度は170百万円減少)しました。これは主に有形固定資産の取得による支出281百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、203百万円のキャッシュが増加(前連結会計年度は57百万円増加)しました。これは、短期借入金の純増額350百万円等による増加要因が、配当金の支払いによる支出81百万円等による減少要因を上回ったことによるものです。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末の1,111百万円から375百万円増加し、1,487百万円となりました。

② 資金需要

当社グループの主な運転資金需要は製品製造の為の原材料購入のほか、製造費用、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。主な営業費用は人件費、広告宣伝費、旅費交通費及び研究開発費であります。当社グループの研究開発費は研究開発に係る材料費及び研究員の人件費がその主要な部分を占めております。

③ 財務政策

当社グループは現在、事業の運営に必要な資金を内部資金、借入により調達することにしております。平成26年9月30日現在の残高は短期借入金が1,910百万円、長期借入金が841百万円(うち、1年以内返済予定の長期借入金284百万円)となっております。

短期借入金及び長期借入金は全て銀行から調達しております。

当社グループはその健全な財政状態や営業活動により、また、キャッシュ・フローを生み出す能力及び未使用の借入枠により、当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金を調達することが可能と考えております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、東京テストラボ上野原サイトの土地取得等により、312百万円計上いたしました。

2 【主要な設備の状況】

当社グループの事業は単一セグメントであり、セグメント情報を記載していないため、業務内容及び主要生産品目別に記載しております。

提出会社

平成26年9月30日現在

事業所名 (所在地)	業務内容及び 主要生産品目	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
本社・大阪工場 (大阪市西淀川 区)	管理業務・ 販売業務 振動シミュ レーション システム	営業設備 生産設備	358,435	9,526	45,828	1,139,076 (16,926)	1,552,867	94 (25)
大阪テストラボ (大阪市西淀川 区)	テスト&ソ リューション サービス	試験設備	93,340	—	37,479	30,406 (453)	161,226	6 (—)
東京工場 (相模原市緑区)	メジャリン グシステム	生産設備	4,455	200	657	128,668 (6,464)	133,981	2 (6)
東京テストラボ (相模原市緑区)	テスト&ソ リューション サービス	試験設備	51,148	1,599	56,810	23,782 (1,190)	133,340	4 (1)
東京テストラボ 上野原サイト (山梨県上野原 市)	テスト&ソ リューション サービス	試験設備	—	—	—	98,163 (4,964)	98,163	— (—)
名古屋営業所 (愛知県みよし 市)	販売業務	営業設備	57,792	—	1,174	8,436 (115)	67,404	8 (—)
名古屋テストラ ボ(愛知県みよし 市)	テスト&ソ リューション サービス	試験設備	231,541	—	67,468	187,764 (2,603)	486,774	3 (—)
東京営業所 (東京都港区)	販売業務	営業設備	2,609	—	5,340	— (—)	7,949	14 (1)
東京エンジニア リングサービス (東京都港区)	振動シミュ レーション システム	営業設備	—	—	381	— (—)	381	8 (1)

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 従業員数の()は平均臨時従業員を外書しております。

3 国内子会社及び在外子会社については、重要性が乏しいため記載しておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの事業は単一セグメントであり、セグメント情報を記載していないため、業務内容及び主要生産品目別に記載しております。

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	業務内容及 び主要生産 品目	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出 会社	東京テ ストラ ボ上 野原サ イト(山 梨県上 野原 市)	テスト& ソリュ ーション サービ ス	建物	1,030,000	28,000	自己資金及び 借入金	平成26年 6月	平成27年 9月	—

- (注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2 完成後の増加能力については合理的に算定できないため、記載しておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新の為の除却を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	67,820,000
計	67,820,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年12月22日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,957,016	16,957,016	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	16,957,016	16,957,016	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成17年12月31日 (注)	8,478,508	16,957,016	—	464,817	—	557,563

(注) 普通株式1株につき2株の割合により株式分割を行っております。

(6) 【所有者別状況】

平成26年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	4	22	36	8	—	781	851	—
所有株式数 (単元)	—	586	856	4,512	129	—	10,852	16,935	22,016
所有株式数 の割合(%)	—	3.46	5.05	26.64	0.76	—	64.08	100.00	—

(注) 自己株式613,473株は「個人その他」に613単元、「単元未満株式の状況」に473株含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
有限会社SEIKO	大阪市北区堂島2丁目1-25-401 堂島アーバンライフビル401	2,993,100	17.65
IMV従業員持株会	大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号 IMV株式会社	1,294,320	7.63
小嶋 成夫	奈良県奈良市	1,281,000	7.55
小嶋 淳平	兵庫県西宮市	814,660	4.80
IMV取引先持株会	大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号	777,000	4.58
エスベック株式会社	大阪市北区天神橋3丁目5番6号	766,000	4.52
IMV株式会社	大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号	613,473	3.62
小嶋 健太郎	大阪市中央区	435,464	2.57
日本証券金融株式会社	大阪市中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	416,000	2.45
北中 壽一	東京都調布市	300,000	1.77
計	—	9,691,017	57.14

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式数) 普通株式 613,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,322,000	16,322	—
単元未満株式	普通株式 22,016	—	一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	16,957,016	—	—
総株主の議決権	—	16,322	—

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式473株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) I M V株式会社	大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号	613,000	—	613,000	3.62
計	—	613,000	—	613,000	3.62

(注) 上記株式数には、単元未満株式473株を含めておりません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価格の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	120	74
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(一)	—	—	—	—
保有自己株式数	613,473	—	613,473	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成26年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による取得は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続して配当を実施することを基本方針としております。また、内部留保資金につきましては、開発・製造体制強化のための設備投資や研究開発資金として活用し、経営基盤の強化とより一層の事業発展のために有効活用して参ります。このような状況に鑑み、単年度の利益だけではなく過去からの剰余金や今後の事業戦略に供する資金等を総合的に勘案して、配当金額を上程させていただきたく存じます。配当の決定機関は、株主総会であります。

当事業年度の利益配当金につきましては、1株につき6円を実施いたしました。

内部留保資金につきましては、開発・製造体制強化のための設備投資や研究開発資金として活用し、経営基盤の強化とより一層の事業発展のために有効活用して参ります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年3月31日を基準日として中間配当をすることができる」旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成26年12月19日 定時株主総会	98,061	6.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成22年9月	平成23年9月	平成24年9月	平成25年9月	平成26年9月
最高(円)	129	187	275	438	752
最低(円)	98	90	119	162	301

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日以前はジャスダック証券取引所、平成22年4月1日以降は大阪証券取引所(JASDAQ市場)、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	752	737	748	716	730	631
最低(円)	415	561	604	588	500	560

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価を記載しております。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	—	小嶋 成 夫	昭和11年3月13日生	昭和33年4月 昭和44年1月 昭和51年7月 昭和61年2月 平成9年3月 シャープ株式会社入社 公認会計士事務所開設 当社代表取締役社長 当社代表取締役会長(現任) 当社代表取締役社長	(注) 4	1,281,000
代表取締役 社長	—	岡 本 二 朗	昭和24年10月20日生	昭和57年12月 平成13年10月 平成15年10月 平成19年12月 当社入社 当社経営企画室長 当社常務執行役員 当社代表取締役社長(現任)	(注) 5	162,000
専務取締役	海外事業 本部長	小嶋 淳 平	昭和51年6月24日生	平成18年6月 平成24年10月 平成26年10月 平成26年12月 当社入社 当社執行役員海外事業本部長 当社専務執行役員海外事業本部長 当社専務取締役海外事業本部長(現任)	(注) 4	814,660
取締役	DSS事業 本部長 兼R&Dセ ンター部長	青 木 秀 修	昭和36年5月11日生	昭和63年3月 平成21年9月 平成24年12月 平成25年10月 平成26年12月 当社入社 当社執行役員営業本部長 当社執行役員R&Dセンター長 当社執行役員DSS事業本部長兼R&Dセンター部長 当社取締役DSS事業本部長兼R&Dセンター部長(現任)	(注) 4	46,000
取締役	—	草 野 欽 也	昭和27年9月25日生	昭和57年11月 平成10年3月 平成14年12月 平成16年7月 平成24年8月 株式会社藏商会入社 同社代表取締役社長 当社監査役 当社取締役(現任) 株式会社藏商会相談役(現任)	(注) 4	28,000
取締役	—	小嶋 健 太 郎	昭和49年2月16日生	平成11年4月 平成11年10月 平成13年1月 平成14年5月 平成17年10月 平成17年12月 チッソ株式会社入社 公認会計士小川皖司事務所入所 公認会計士小嶋成夫事務所入所 税理士登録(現任) 小嶋健太郎税理士事務所所長(現任) 当社取締役(現任)	(注) 5	435,464
常勤監査役	—	高 嶋 文 雄	昭和22年2月13日生	昭和45年4月 平成7年4月 平成15年10月 平成19年10月 平成23年12月 当社入社 当社東京工場長 当社執行役員 当社ソリューション事業部長 当社監査役(現任)	(注) 6	233,000
監査役	—	寺 田 康 男	昭和24年5月17日生	昭和45年8月 平成15年10月 平成15年12月 平成16年6月 平成24年1月 平成25年10月 朝日電器株式会社入社 同社取締役財務部長 当社監査役(現任) 朝日電器株式会社常務取締役財務グル ープ長兼財務部長 同社専務取締役管理本部本部長 同社代表取締役専務管理本部本部長 (現任)	(注) 6	28,000
監査役	—	橋 本 光	昭和22年9月15日生	昭和45年4月 平成10年5月 平成12年7月 平成18年6月 平成20年12月 平成22年6月 平成23年3月 山一證券株式会社入社 松井証券株式会社入社 株式会社ジャスダック・サービス(現 株式会社日本取引所グループ)入社 同社執行役ステークスホルダーズ本部 副本部長兼IR支援部長 当社監査役(現任) 神田通信機株式会社社外監査役(現任) 株式会社C&Gシステムズ社外監査役 (現任)	(注) 7	3,000
計						3,031,124

- (注) 1 取締役 草野欽也及び小嶋健太郎は、社外取締役であります。
 2 監査役 寺田康男及び橋本光は、社外監査役であります。
 3 当社は、安定した収益確保、経営体質の強化を目指して執行役員制度を導入し、経営の意思決定と業務執行
 監督機能を分離しております。提出日現在の執行役員(取締役を兼務する執行役員は除く)は、執行役員ME
 S事業本部長 桂井徹及び 執行役員営業本部長兼テストラボ事業本部長 岡本裕司の2名であります。

- 4 代表取締役会長 小嶋成夫、専務取締役 小嶋淳平、取締役 草野欽也及び青木秀修の任期は、平成26年9月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 代表取締役社長 岡本二郎及び取締役 小嶋健太郎の任期は、平成25年9月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 常勤監査役 高嶋文雄及び監査役 寺田康男の任期は、平成23年9月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役 橋本光の任期は、平成24年9月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 取締役 小嶋健太郎は、代表取締役会長 小嶋成夫の長男であります。
- 9 専務取締役 小嶋淳平は、代表取締役会長 小嶋成夫の次男であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

(企業統治の体制の概要)

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営組織その他企業統治の体制の状況は以下のとおりであります。

イ 取締役会

取締役会は、月1回の定例取締役会に加え、必要に応じて臨時役員会を開催し、経営の意思決定及び業務執行の監督を行っております。

当事業年度は11回の定例取締役会を開催し、経営に関する重要事項を協議決定いたしました。

ロ 監査役会

監査役会は監査役3名(うち2名は社外監査役)で構成され、社外監査役については財務及び会計に関する相当程度の知見を有する監査役を選任しており、監査役会として、取締役会や各部門が開催する会議への出席のほか、内部監査室、会計監査人と連携しつつ、稟議案件及び業務・財産の状況調査を通じて取締役の職務遂行等について監査を行っております。

当事業年度は11回の定例監査役会を開催いたしました。

ハ 執行役員会

意思決定と実務執行を分離し、実務執行の達成・充実のため平成14年1月より執行役員制度を導入しております。取締役会の決議に基づく業務の遂行について、執行役員間の情報交換・連絡・調整を円滑に図ることを目的に、原則として月1回の定例執行役員会を開催しております。

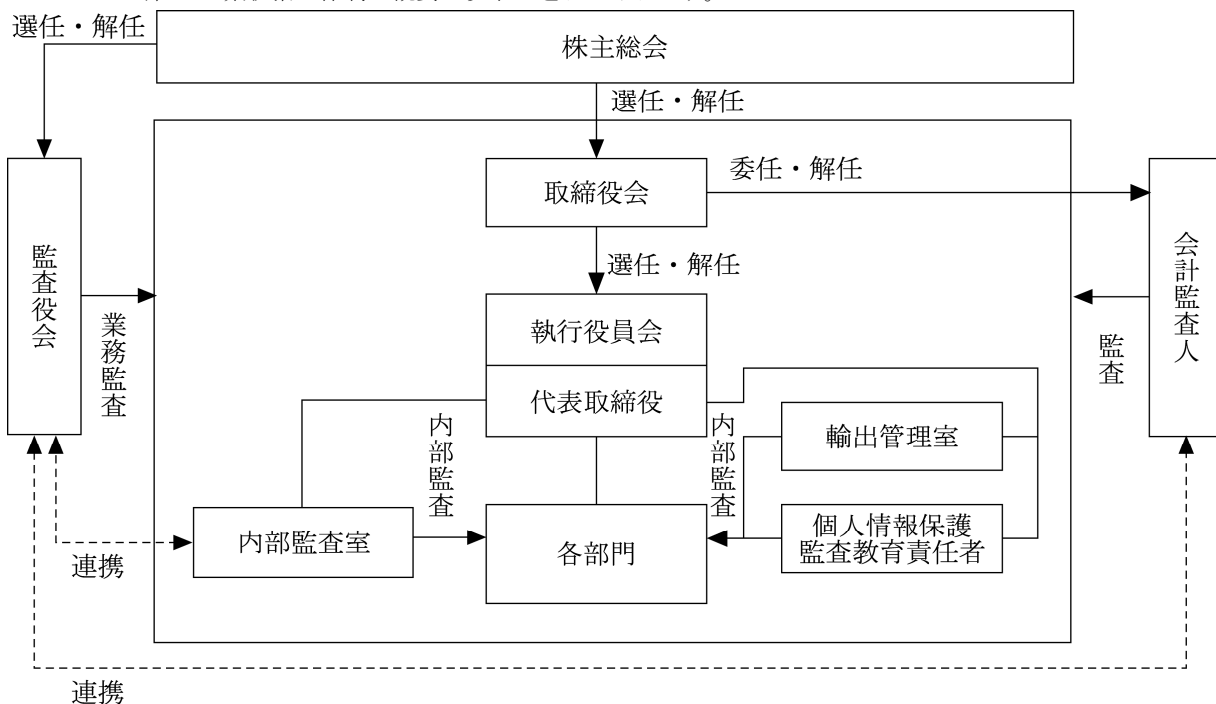
当事業年度は12回の定例執行役員会を開催し、業務執行に関する重要事項を協議決定いたしました。

(企業統治の体制を採用する理由)

当社は、企業の社会的責任を果たすため、企業統治を充実させることを経営の重要課題の一つであると考えております。その方針に沿って執行役員制度を平成14年1月から導入し、取締役会の本来の機能をさらに凝縮・充実させ、経営責任の明確化と業務執行の迅速化を図る体制を敷いております。

会社法上の機関及びその他業務意思決定機関としては、最高機関としての株主総会、その選任による取締役で構成される取締役会が、当社の事業全般の最高意思決定機関に位置付けられます。また、同様に株主総会にて選任された監査役は、取締役の職務の執行について監査いたします。さらに、取締役会の下位機関として執行役員会を設けております。これは、意思決定と業務執行を分離し、業務の達成・充実を目的として、より現場業務の実体に即した運営を目指すものであります。

当社の企業統治の体制の概要は以下の通りであります。



(内部統制システムの整備の状況)

社内規程に謳われている規則は、取締役を筆頭に従業員全員がそれをよく守り、適正・効率的な業務運営を心がけております。その監視としましては、内部監査室を設け、内部監査規程及び内部監査マニュアルによる定期及び特命監査を実施し、社内の不正・誤謬を未然に防ぐ体制を敷いております。

また、会計監査は有限責任監査法人トーマツに依頼し、通常の監査業務のほか適宜アドバイスを受けております。

内部監査室、監査役会及び会計監査を行っている監査法人は、それぞれ定期的に意見交換を実施しております。

(リスク管理体制の整備の状況)

イ 業務の適正な遂行を管理するための体制

当社においては、販売、購買、総務などの主要業務につき、担当部門を分けることにより、内部牽制が働くようにしております。その上で、代表取締役直轄の内部監査室が、内部監査規程及び内部監査マニュアルに基づき、随時内部監査を実施することで、各部門が業務を遂行する上で法令及び社内諸規程を遵守し、当該業務が合法かつ適正に行われていることを確認しております。

ロ 情報の保存及び管理に関する体制

当社の業務遂行上、個人情報を含む重要事項に接する機会があります。このため、個人情報保護規程を制定し、社内規程の勉強会を実施し周知徹底を図り情報漏洩対策を実施しております。

また、インサイダー取引規制への対応といたしましても、インサイダー取引規程を制定し、自己株式の売買の管理を行うほか、社内勉強会を実施し周知徹底しております。

ハ 反社会勢力の排除に関する体制

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会勢力・団体に関しては、断固たる行動をとるものとし、一切の関係を遮断することを基本方針としております。また、必要に応じて警察・顧問弁護士等の外部専門機関と連携し、組織的かつ速やかに対応することとしております。

② 内部監査及び監査役監査

当社では内部監査室の1名が内部監査を担当しております。内部監査規程及び内部監査マニュアルに基づき、随時内部監査を実施することで、各部門が業務を遂行する上で法令及び社内諸規程を遵守し、当該業務が合法かつ適正に行われていることを確認しております。

監査役会は常勤監査役1名、非常勤監査役2名の計3名であり、監査役会の協議により定めた監査役監査規程に準拠し、取締役の業務執行の適法性、妥当性に関し、公正・客観的な立場から監査を行っております。また、原則として、取締役会には監査役全員が出席しており、取締役の業務執行を十分に監査できる体制になっております。

内部監査室、監査役会及び会計監査を行っている監査法人は、情報の共有及び意見交換に努めており、監査の有効性及び効率性を高めております。

また、輸出管理室において、輸出管理プログラムが遵守されていることを確認しております。

その他、顧問弁護士や会計監査人等から必要に応じて適宜アドバイスを受け、経営全般に活かしております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社には、社外取締役2名及び社外監査役2名が就任しております。

当社は、社外取締役が企業統治において果たす役割及び機能は、専門的な見地から経営を監督し、客観的な視点で経営判断を行うことができる体制を構築することと考えております。

社外取締役のうち、草野欽也は、株式会社藏商会の相談役であり、企業経営に関する豊富な経験と知見を備えており、人格等からも適任であると考えております。また、小嶋健太郎は、税理士としての豊富な経験と知見を備えており、人格等からも適任であると考えております。

当社は、社外監査役が企業統治において果たす役割及び機能は、高い独立性及び専門的な見地から、客観的な監視、監督ができる企業統治体制を構築することと考えております。

社外監査役のうち、寺田康男は、朝日電器株式会社の代表取締役専務管理本部本部長であり、企業経営に関する豊富な経験と知見を備えており、社外の第三者的立場から当社の取締役の業務執行を監査するにあたり、人格等からも適任であると考えております。また、橋本光は、豊富な経験と知見を備えており、社外の第三者的立場から当社の取締役の業務執行を監査するにあたり、人格等からも適任であると考えております。

社外取締役のうち小嶋健太郎は代表取締役会長 小嶋成夫の長男であります。

上記以外に、社外取締役及び社外監査役と会社との人的関係、「第4 提出会社の状況 5 役員状況」に記載している株式の所有を除く資本関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

また、当社は社外取締役及び社外監査役の独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、選任にあたっては金融商品取引所の独立役員に関する判断基準等を参考しております。

④ 役員報酬等

a 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	104,119	71,290	—	32,829	—	2
監査役 (社外監査役を除く。)	11,488	7,866	—	3,621	—	1
社外役員	19,602	13,420	—	6,182	—	4

b 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

c 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

d 役員報酬等の額の決定に関する方針

役員報酬等の額につきましては、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、会社の業績等を勘案して決定しております。決定方法は、取締役につきましては取締役会の決議で、監査役につきましては監査役の協議により決定しております。

⑤ 株式の保有状況

a 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 12銘柄

貸借対照表計上額の合計額 89,596千円

b 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
エスベック株式会社	30,580	23,486	取引関係維持及び強化のため
協立電機株式会社	7,428	9,880	取引関係維持及び強化のため
株式会社りそなホールディングス	12,230	6,139	取引関係維持及び強化のため
国際計測器株式会社	4,000	3,752	取引関係維持及び強化のため
株式会社大和証券グループ本社	3,639	3,202	取引関係維持及び強化のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	12,242	2,607	取引関係維持及び強化のため
株式会社エー・アンド・デイ	4,000	2,344	取引関係維持及び強化のため
日本電計株式会社	1,198	1,114	取引関係維持及び強化のため
株式会社T&Dホールディングス	800	971	取引関係維持及び強化のため
平河ヒューテック株式会社	400	310	取引関係維持及び強化のため
国際電測興業株式会社	400	200	取引関係維持及び強化のため
明治電機工業株式会社	200	112	取引関係維持及び強化のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
エスベック株式会社	45,564	47,660	取引関係維持及び強化のため
協立電機株式会社	8,003	14,053	取引関係維持及び強化のため
株式会社りそなホールディングス	12,230	7,563	取引関係維持及び強化のため
国際計測器株式会社	4,000	7,596	取引関係維持及び強化のため
株式会社大和証券グループ本社	3,794	3,297	取引関係維持及び強化のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	12,242	2,398	取引関係維持及び強化のため
株式会社エー・アンド・デイ	4,000	2,232	取引関係維持及び強化のため
日本電計株式会社	1,868	2,860	取引関係維持及び強化のため
株式会社T&Dホールディングス	800	1,126	取引関係維持及び強化のため
平河ヒューテック株式会社	400	458	取引関係維持及び強化のため
国際電測興業株式会社	800	200	取引関係維持及び強化のため
明治電機工業株式会社	200	150	取引関係維持及び強化のため

c 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

会計監査は有限責任監査法人トーマツに依頼し、通常の監査業務のほか適宜アドバイスを受けております。

(会計監査の状況)

監査法人：有限責任監査法人トーマツ

業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 井上 嘉之、西方 実

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 3名、その他 4名

(注) その他は、公認会計士試験合格者等であります。

⑦ 取締役会で決議することができる株主総会決議事項

a 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって、毎年3月31日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

b 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

⑧ 取締役の員数

当社の取締役は7名以内とする旨を定款で定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。なお、累積投票によらないものとしております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の円滑な運営を図るためであります。

⑪ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役がその役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって、同法423条第1項に定める取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	23,000	—	23,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	23,000	—	23,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社連結子会社であるIMV (THAILAND) CO., LTD. 及びIMV EUROPE LIMITEDが、当社の監査公認会計士等である有限責任監査法人トーマツと同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsuのメンバーファームに対して支払うべき当連結会計年度における監査証明業務に基づく報酬は、それぞれ1,342千円、1,522千円であります。

当連結会計年度

当社連結子会社であるIMV (THAILAND) CO., LTD. 及びIMV EUROPE LIMITEDが、当社の監査公認会計士等である有限責任監査法人トーマツと同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsuのメンバーファームに対して支払うべき当連結会計年度における監査証明業務に基づく報酬は、それぞれ1,331千円、2,433千円であります。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査日数等の妥当性を勘案し、協議を行ったうえで決定することを方針としております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年10月1日から平成26年9月30日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年10月1日から平成26年9月30日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年10月1日から平成26年9月30日まで)及び事業年度(平成25年10月1日から平成26年9月30日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報の収集を行っております。

また、公益財団法人財務会計基準機構の主催する研修・セミナーに参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※1 1,317,596	1,700,887
受取手形及び売掛金	※1 1,669,414	※1 2,718,651
製品	280,369	294,643
仕掛品	1,026,288	968,309
原材料	314,757	339,111
繰延税金資産	142,492	168,895
その他	77,919	124,448
貸倒引当金	△1,199	△19,294
流動資産合計	4,827,639	6,295,653
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 1,898,727	※1 1,905,746
減価償却累計額	△974,731	△1,054,468
建物及び構築物（純額）	923,996	851,278
機械装置及び運搬具	267,618	272,885
減価償却累計額	△226,322	△230,667
機械装置及び運搬具（純額）	41,295	42,217
工具、器具及び備品	1,109,680	1,193,652
減価償却累計額	△846,850	△962,312
工具、器具及び備品（純額）	262,829	231,340
土地	※1 1,526,802	※1 1,624,965
建設仮勘定	—	62,414
有形固定資産合計	2,754,922	2,812,215
無形固定資産		
のれん	4,543	908
ソフトウェア	17,303	24,566
その他	3,626	3,635
無形固定資産合計	25,473	29,110
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 73,121	※1 136,049
繰延税金資産	17,256	10,526
長期預金	25,625	30,167
その他	38,757	37,935
投資その他の資産合計	154,761	214,678
固定資産合計	2,935,158	3,056,005
資産合計	7,762,797	9,351,658

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,047,123	1,355,757
短期借入金	※1 1,560,000	※1 1,910,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 324,914	※1 284,828
未払金	193,166	200,660
未払費用	221,642	270,835
未払法人税等	159,019	380,049
未払消費税等	6,100	52,706
製品保証引当金	57,000	58,000
その他	229,945	253,585
流動負債合計	3,798,911	4,766,423
固定負債		
長期借入金	※1 581,841	※1 557,037
繰延税金負債	33,175	35,856
長期未払金	194,859	194,859
資産除去債務	37,499	38,435
その他	30,392	29,083
固定負債合計	877,767	855,271
負債合計	4,676,679	5,621,694
純資産の部		
株主資本		
資本金	464,817	464,817
資本剰余金	557,563	557,563
利益剰余金	2,150,869	2,782,629
自己株式	△109,829	△109,903
株主資本合計	3,063,420	3,695,106
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,953	34,048
為替換算調整勘定	3,743	808
その他の包括利益累計額合計	22,697	34,857
純資産合計	3,086,117	3,729,963
負債純資産合計	7,762,797	9,351,658

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	6,119,313	7,863,590
売上原価	※4 3,847,979	※4 4,769,736
売上総利益	2,271,333	3,093,853
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	60,296	62,179
販売手数料	32,511	49,450
製品保証引当金繰入額	57,000	58,000
役員報酬	136,474	142,891
給料及び手当	302,190	343,612
賞与	88,622	87,978
退職給付費用	15,343	16,480
福利厚生費	60,098	62,981
地代家賃	38,893	46,333
賃借料	18,584	22,973
旅費及び交通費	91,547	96,814
減価償却費	35,611	31,886
研究開発費	※1 294,355	※1 484,756
のれん償却額	3,634	3,634
貸倒引当金繰入額	△200	18,094
その他	388,901	377,045
販売費及び一般管理費合計	1,623,866	1,905,113
営業利益	647,466	1,188,739
営業外収益		
受取利息	434	461
受取配当金	1,296	1,972
受取賃貸料	20,233	35,297
セミナー収入	4,274	8,116
為替差益	61,296	29,336
雑収入	20,394	9,296
営業外収益合計	107,930	84,482
営業外費用		
支払利息	16,268	15,503
賃貸収入原価	3,133	3,772
セミナー費用	4,962	5,557
雑損失	4,636	3,874
営業外費用合計	29,001	28,708
経常利益	726,395	1,244,513
特別損失		
固定資産除却損	※2 4,906	※2 1,952
減損損失	—	※3 43,512
特別損失合計	4,906	45,465
税金等調整前当期純利益	721,488	1,199,048
法人税、住民税及び事業税	297,790	509,895
法人税等調整額	△25,179	△24,325
法人税等合計	272,611	485,569
少数株主損益調整前当期純利益	448,877	713,478
当期純利益	448,877	713,478

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	448,877	713,478
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,351	15,095
為替換算調整勘定	4,878	△2,935
その他の包括利益合計	※1 17,230	※1 12,160
包括利益	466,107	725,638
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	466,107	725,638
少数株主に係る包括利益	—	—

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	464,817	557,563	1,783,717	△109,327	2,696,770	6,601	△1,134	5,467	2,702,237
当期変動額									
剰余金の配当			△81,725		△81,725				△81,725
当期純利益			448,877		448,877				448,877
自己株式の取得				△501	△501				△501
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						12,351	4,878	17,230	17,230
当期変動額合計	—	—	367,151	△501	366,650	12,351	4,878	17,230	383,880
当期末残高	464,817	557,563	2,150,869	△109,829	3,063,420	18,953	3,743	22,697	3,086,117

当連結会計年度(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	464,817	557,563	2,150,869	△109,829	3,063,420	18,953	3,743	22,697	3,086,117
当期変動額									
剰余金の配当			△81,718		△81,718				△81,718
当期純利益			713,478		713,478				713,478
自己株式の取得				△74	△74				△74
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						15,095	△2,935	12,160	12,160
当期変動額合計	—	—	631,759	△74	631,685	15,095	△2,935	12,160	643,845
当期末残高	464,817	557,563	2,782,629	△109,903	3,695,106	34,048	808	34,857	3,729,963

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	721,488	1,199,048
減価償却費	258,788	205,855
減損損失	—	43,512
のれん償却額	3,634	3,634
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△200	18,094
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△4,000	1,000
受取利息及び受取配当金	△1,731	△2,434
受取賃貸料	△20,233	△35,297
支払利息	16,268	15,503
為替差損益 (△は益)	△33,042	△13,922
固定資産除却損	4,906	1,952
売上債権の増減額 (△は増加)	339,926	△1,045,489
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△417,788	21,129
仕入債務の増減額 (△は減少)	△276,702	247,680
その他	69,157	99,380
小計	660,473	759,647
利息及び配当金の受取額	1,328	2,472
利息の支払額	△11,436	△15,355
法人税等の支払額	△396,517	△295,416
法人税等の還付額	7,427	11,655
営業活動によるキャッシュ・フロー	261,275	463,003
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△5,640	△40,530
有形固定資産の取得による支出	△159,764	△281,514
無形固定資産の取得による支出	△12,898	△16,291
定期預金の預入による支出	△11,529	△12,032
保険積立金の解約による収入	2,049	790
その他	17,383	36,104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△170,399	△313,474
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	30,000	350,000
長期借入れによる収入	600,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△491,074	△364,890
自己株式の取得による支出	△501	△74
配当金の支払額	△81,396	△81,963
財務活動によるキャッシュ・フロー	57,027	203,071
現金及び現金同等物に係る換算差額	41,725	23,198
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	189,629	375,799
現金及び現金同等物の期首残高	921,920	1,111,550
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,111,550	※1 1,487,349

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 4社

連結子会社の名称

日東精機株式会社、株式会社データ・テクノ、IMV (THAILAND) CO., LTD.、IMV EUROPE LIMITED

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

3 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

(イ) 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

a 製品及び仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

b 原材料

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

当社及び国内連結子会社については、主として定率法（ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物

建物 30年～50年

構築物 8年～18年

機械装置及び運搬具

機械及び装置 5年～11年

車両運搬具 4年～5年

工具、器具及び備品 2年～6年

② 無形固定資産

a 自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

b 市場販売目的のソフトウェア

見込販売数量に基づく償却額と見込有効期間（3年）に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を償却する方法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率法によって計上しております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権

財務内容評価法によっております。

② 製品保証引当金

販売済製品の無償補修費の支出に備えるため、過去の実績率を基礎にして算出した保証期間内の無償補修費の見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは5年間で均等償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高く、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供されている資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供されている資産

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
現金及び預金	144,122千円	— 千円
受取手形及び売掛金	112,175千円	444,514千円
建物及び構築物	826,078千円	761,389千円
土地	1,518,134千円	1,518,134千円
投資有価証券	852千円	784千円
計	2,601,363千円	2,724,823千円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
短期借入金	1,170,000千円	1,560,000千円
1年内返済予定の長期借入金	208,324千円	164,944千円
長期借入金	305,031千円	313,447千円
計	1,683,355千円	2,038,391千円

2 コミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。
連結会計年度末におけるコミットメントに係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高	— 千円	— 千円
差引額	500,000千円	500,000千円

(連結損益計算書関係)

※1 研究開発費の総額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
一般管理費	294,355千円	484,756千円

※2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
建物及び構築物	1,785千円	1,752千円
機械装置及び運搬具	1千円	— 千円
工具、器具及び備品	61千円	200千円
ソフトウェア	3,058千円	— 千円
計	4,906千円	1,952千円

※3 減損損失

前連結会計年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

地域	用途	種類	減損損失額(千円)
IMV(THAILAND) CO., LTD.	テスト&ソリューションサービス	工具、器具及び備品	43,512

当社グループは、原則として会社毎を基礎として、経営管理単位を勘案し資産のグルーピングを行っております。

連結子会社IMV(THAILAND) CO., LTD.において、営業活動から生じた損益の継続的なマイナスの計上により、事業用資産について減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、使用価値は零としております。

※4 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性低下による簿価切り下げ額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
売上原価	34,612千円	22,902千円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	14,505千円	22,430千円
組替調整額	— 千円	— 千円
税効果調整前	14,505千円	22,430千円
税効果額	△2,153千円	△7,334千円
その他有価証券評価差額金	12,351千円	15,095千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	4,878千円	△2,935千円
その他の包括利益合計	17,230千円	12,160千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	16,957,016	—	—	16,957,016

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	611,953	1,400	—	613,353

(変動事由の概要)

増加の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる取得 1,400株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年12月21日 定時株主総会	普通株式	81,725	5.00	平成24年9月30日	平成24年12月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年12月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	81,718	5.00	平成25年9月30日	平成25年12月24日

当連結会計年度(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	16,957,016	—	—	16,957,016

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	613,353	120	—	613,473

(変動事由の概要)

増加の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる取得 120株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年12月20日 定時株主総会	普通株式	81,718	5.00	平成25年9月30日	平成25年12月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年12月19日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	98,061	6.00	平成26年9月30日	平成26年12月22日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
	現金及び預金	1,317,596千円
預入期間が3か月を 超える定期預金	△206,046千円	△213,538千円
現金及び現金同等物	1,111,550千円	1,487,349千円

(リース取引関係)

リース取引開始日が、リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っております。

1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	35,105	33,022	2,083
合計	35,105	33,022	2,083

(注) 当連結会計年度においては、注記対象となるリース契約のリース期間が満了したため、該当事項はありません。

2 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)
1年以内	2,306
1年超	—
合計	2,306

(注) 当連結会計年度においては、注記対象となるリース契約のリース期間が満了したため、該当事項はありません。

3 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
支払リース料	27,987	2,326
減価償却費相当額	25,356	2,083
支払利息相当額	460	20

4 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

(1) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(2) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については主として銀行借入による方針であります。デリバティブは、為替相場の変動リスクの回避を目的とし、投機的な取引及び短期的な売買損益を得る取引の利用は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、当社グループの与信管理規程に従い、取引先ごとに取引金額に基づいた与信金額を設定しており、定期的に回収状況に関するモニタリングを行っております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の上場株式会社であり、定期的に時価を把握し財務状況等を確認しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

有利子負債のうち、短期借入金は運転資金に係るものであり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達によるものですが、安定した手元資金を確保することを目的とするものも含まれております。

デリバティブ取引については、定められた運用資金の範囲内でのみ行うものであり、事前に稟議決裁を受けた上で、経営企画本部が実行及び管理を行っております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)参照)。

前連結会計年度(平成25年9月30日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,317,596	1,317,596	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,669,414	1,669,414	—
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	72,921	72,921	—
資産計	3,059,933	3,059,933	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,047,123	1,047,123	—
(2) 短期借入金	1,560,000	1,560,000	—
(3) 1年内返済予定の長期借入金	324,914	325,768	△854
(4) 長期借入金	581,841	583,371	△1,530
負債計	3,513,878	3,516,263	△2,385

当連結会計年度(平成26年9月30日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,700,887	1,700,887	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,718,651	2,718,651	—
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	109,426	109,426	—
資産計	4,528,966	4,528,966	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,355,757	1,355,757	—
(2) 短期借入金	1,910,000	1,910,000	—
(3) 1年内返済予定の長期借入金	284,828	285,677	△849
(4) 長期借入金	557,037	559,633	△2,596
負債計	4,107,622	4,111,067	△3,445

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価は、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格及び取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 1年内返済予定の長期借入金、及び(4) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成25年9月30日	平成26年9月30日
非上場株式	200	26,622

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 満期のある金銭債権及び有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成25年9月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	284,474	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,669,414	—	—	—
合計	1,953,888	—	—	—

当連結会計年度(平成26年9月30日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	297,979	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,718,651	—	—	—
合計	3,016,631	—	—	—

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」に記載しております。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年9月30日)

(単位：千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	54,187	32,736	21,450
債券	—	—	—
その他	18,423	17,854	569
小計	72,610	50,591	22,019
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	310	335	△24
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	310	335	△24
合計	72,921	50,926	21,995

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額200千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と考えられることから、上表には含めておりません。

当連結会計年度(平成26年9月30日)

(単位：千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	90,336	47,146	43,189
債券	—	—	—
その他	19,090	17,854	1,235
小計	109,426	65,001	44,425
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	—	—	—
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	109,426	65,001	44,425

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額26,622千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と考えられることから、上表には含めておりません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

3 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定拠出年金制度のほか、中小企業退職金共済制度に加入しております。また、子会社は確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度に加入しております。

2. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
(1) 確定拠出年金への掛金支払額(千円)	37,884	40,530
(2) 中小企業退職金共済制度への拠出額(千円)	11,596	11,607
退職給付費用(千円)	49,481	52,138

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

(1) 流動資産

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
繰延税金資産		
たな卸資産	33,338千円	32,752千円
貸倒引当金	415千円	6,794千円
未払賞与	49,728千円	56,415千円
未払法定福利費	11,023千円	12,240千円
未払事業税	14,125千円	30,051千円
未払事業所税	5,129千円	4,609千円
製品保証引当金	21,546千円	20,532千円
未払金	5,978千円	1,790千円
その他	1,206千円	3,708千円
合計	142,492千円	168,895千円

(2) 固定資産

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
繰延税金資産		
土地	12,644千円	12,644千円
投資有価証券	6,833千円	6,833千円
有形固定資産	50,742千円	48,245千円
減損損失	2,775千円	12,869千円
長期未払金	62,137千円	62,137千円
資産除去債務	11,302千円	11,462千円
その他	44,030千円	60,893千円
小計	190,465千円	215,085千円
評価性引当金	△129,803千円	△156,915千円
合計	60,662千円	58,169千円
繰延税金負債と相殺	△43,405千円	△47,643千円
差引	17,256千円	10,526千円

(3) 固定負債

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△3,041千円	△10,376千円
圧縮積立金	△67,273千円	△67,273千円
資産除去債務	△5,201千円	△4,742千円
その他	△1,064千円	△1,108千円
合計	△76,581千円	△83,499千円
繰延税金資産と相殺	43,405千円	47,643千円
差引	△33,175千円	△35,856千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
法定実効税率	—	37.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—	2.0%
評価性引当金の増加	—	3.7%
受取配当金	—	△0.1%
住民税均等割	—	0.1%
試験研究費控除	—	△5.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	0.9%
子会社税率差異	—	1.4%
その他	—	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	40.5%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年10月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については前連結会計年度の37.8%から35.4%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が10,460千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務に関する注記事項については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社及び連結子会社の事業は振動に関するシミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売を事業内容とする単一事業区分であるため、セグメント情報は記載していません。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成24年10月1日 至平成25年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

	振動シミュレーションシステム	メジャリングシステム	テスト&ソリューションサービス	合計
外部顧客への売上高(千円)	4,108,431	954,050	1,056,830	6,119,313

2 地域ごとの情報

(1)売上高

(単位：千円)

日本	アジア	その他	合計
4,886,894	741,193	491,225	6,119,313

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

	振動シミュレーションシステム	メジャリングシステム	テスト&ソリューションサービス	合計
外部顧客への売上高(千円)	5,678,995	860,400	1,324,194	7,863,590

2 地域ごとの情報

(1)売上高

(単位：千円)

日本	アジア	その他	合計
5,996,006	1,068,529	799,053	7,863,590

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
株式会社守谷商会	1,222,530

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは、振動に関するシミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売を事業内容とする単一事業区分であるため、記載を省略しております。なお、当連結会計年度の固定資産の減損損失は43,512千円となっております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自平成24年10月1日 至平成25年9月30日)

当社及び連結子会社の事業は振動に関するシミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売を事業内容とする単一事業区分であるため、セグメント情報については記載を省略しております。なお、当連結会計年度ののれんの償却額は3,634千円、未償却残高は4,543千円となっております。

当連結会計年度(自平成25年10月1日 至平成26年9月30日)

当社及び連結子会社の事業は振動に関するシミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売を事業内容とする単一事業区分であるため、セグメント情報については記載を省略しております。なお、当連結会計年度ののれんの償却額は3,634千円、未償却残高は908千円となっております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
1株当たり純資産額	188円83銭	228円22銭
1株当たり当期純利益	27円46銭	43円65銭

(注) 1 前連結会計年度及び当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
純資産の部の合計額(千円)	3,086,117	3,729,963
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	3,086,117	3,729,963
期末の普通株式の数(株)	16,343,663	16,343,543

(2) 1株当たり当期純利益

項目	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
連結損益計算書上の当期純利益(千円)	448,877	713,478
普通株式に係る当期純利益(千円)	448,877	713,478
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	16,344,646	16,343,621

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,560,000	1,910,000	0.44	—
1年以内に返済予定の長期借入金	324,914	284,828	0.84	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	581,841	557,037	0.66	平成27年10月30日～ 平成31年1月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
その他有利子負債 その他固定負債(預り保証金)	24,750	24,750	0.50	—
合計	2,491,505	2,776,615	—	—

(注) 1 平均利率については借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は次のとおりであります。なお、その他有利子負債(預り保証金)について、返済期限の定めはありません。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	209,909	179,856	147,104	20,168

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,766,810	4,346,045	5,836,920	7,863,590
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	373,434	934,063	963,138	1,199,048
四半期(当期) 純利益金額 (千円)	229,240	554,493	567,244	713,478
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	14.03	33.93	34.71	43.65

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	14.03	19.90	0.78	8.95

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※2 974,693	1,238,877
受取手形	※2 688,813	※2 1,044,099
売掛金	※1 1,170,440	※1 2,064,510
製品	267,592	292,087
仕掛品	991,447	898,714
原材料	306,195	324,560
前払費用	36,017	33,577
未収入金	※1 14,344	※1 7,385
繰延税金資産	123,315	144,027
その他	※1 28,368	※1 99,777
貸倒引当金	△1,100	△19,194
流動資産合計	4,600,130	6,128,424
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2 829,324	※2 763,969
構築物	40,736	35,354
機械及び装置	14,334	10,789
車両運搬具	186	536
工具、器具及び備品	206,426	215,142
土地	※2 1,518,134	※2 1,616,297
建設仮勘定	—	62,414
有形固定資産合計	2,609,143	2,704,503
無形固定資産		
ソフトウェア	16,553	24,088
電話加入権	3,048	3,048
無形固定資産合計	19,602	27,136
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 72,544	※2 108,686
関係会社株式	158,746	56,106
出資金	10	10
長期預金	25,625	30,167
関係会社長期貸付金	65,200	82,192
その他	24,512	21,452
投資その他の資産合計	346,639	298,614
固定資産合計	2,975,385	3,030,255
資産合計	7,575,515	9,158,679

(単位：千円)

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	653,708	831,892
買掛金	※1 386,069	※1 493,634
短期借入金	※2 1,560,000	※2 1,910,000
1年内返済予定の長期借入金	※2 324,914	※2 284,828
未払金	※1 191,087	※1 191,046
未払費用	192,692	227,655
未払法人税等	156,105	355,525
未払消費税等	—	46,630
前受金	167,914	221,793
製品保証引当金	57,000	58,000
その他	11,574	21,899
流動負債合計	3,701,066	4,642,906
固定負債		
長期借入金	※2 581,841	※2 557,037
繰延税金負債	33,175	35,856
長期預り保証金	24,750	24,750
長期未払金	175,529	175,529
その他	31,927	32,379
固定負債合計	847,223	825,552
負債合計	4,548,289	5,468,459
純資産の部		
株主資本		
資本金	464,817	464,817
資本剰余金		
資本準備金	557,563	557,563
資本剰余金合計	557,563	557,563
利益剰余金		
利益準備金	24,500	24,500
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	113,071	113,071
繰越利益剰余金	1,958,311	2,606,517
利益剰余金合計	2,095,883	2,744,089
自己株式	△109,829	△109,903
株主資本合計	3,008,434	3,656,565
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	18,791	33,654
評価・換算差額等合計	18,791	33,654
純資産合計	3,027,225	3,690,220
負債純資産合計	7,575,515	9,158,679

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	第67期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	第68期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	※4 6,007,232	※4 7,564,360
売上原価	※4 3,834,341	※4 4,668,408
売上総利益	2,172,890	2,895,952
販売費及び一般管理費	※1 1,472,505	※1 1,669,666
営業利益	700,385	1,226,285
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	※4 7,008	※4 8,114
為替差益	34,532	16,453
受取手数料	※4 9,600	※4 6,600
受取賃貸料	※4 29,566	※4 44,647
セミナー収入	4,274	8,116
雑収入	15,574	7,082
営業外収益合計	100,557	91,014
営業外費用		
支払利息	15,470	15,106
賃貸収入原価	6,203	6,610
セミナー費用	4,962	5,557
雑損失	4,636	3,790
営業外費用合計	31,273	31,064
経常利益	769,669	1,286,235
特別利益		
固定資産売却益	—	※2 28
特別利益合計	—	28
特別損失		
固定資産除却損	※3 4,906	※3 83
関係会社株式評価損	—	※5 102,639
特別損失合計	4,906	102,723
税引前当期純利益	764,762	1,183,540
法人税、住民税及び事業税	289,049	478,851
法人税等調整額	△16,249	△25,235
法人税等合計	272,799	453,616
当期純利益	491,962	729,923

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	第67期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)		第68期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料費	※1	3,131,390	67.5	3,718,269	70.4
II 労務費		926,888	20.0	1,015,906	19.3
III 経費		580,970	12.5	541,959	10.3
当期総製造費用		4,639,248	100.0	5,276,135	100.0
期首仕掛品たな卸高		698,468		991,447	
合計		5,337,716		6,267,583	
期末仕掛品たな卸高		991,447		898,714	
他勘定振替高	※2	426,043		675,965	
当期製品製造原価		3,920,225		4,692,903	

(注) ※1 主な内訳は次のとおりであります。

項目	第67期	第68期
旅費及び交通費(千円)	99,492	105,051
運送費(千円)	33,037	32,528
減価償却費(千円)	194,312	150,762

※2 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

項目	第67期	第68期
研究開発費(千円)	291,992	474,363
製品無償補修費(千円)	89,062	100,704
建設仮勘定(千円)	47,240	23,157
工具、器具及び備品(千円)	—	79,001
その他(千円)	△2,250	△1,261
計(千円)	426,043	675,965

(原価計算の方法)

当社の原価計算は実際個別原価計算であります。

③ 【株主資本等変動計算書】

第67期(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					固定資産圧縮 積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	464,817	557,563	557,563	24,500	113,071	1,548,074	1,685,646
当期変動額							
剰余金の配当						△81,725	△81,725
当期純利益						491,962	491,962
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	410,237	410,237
当期末残高	464,817	557,563	557,563	24,500	113,071	1,958,311	2,095,883

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△109,327	2,598,698	6,533	6,533	2,605,232
当期変動額					
剰余金の配当		△81,725			△81,725
当期純利益		491,962			491,962
自己株式の取得	△501	△501			△501
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			12,257	12,257	12,257
当期変動額合計	△501	409,735	12,257	12,257	421,993
当期末残高	△109,829	3,008,434	18,791	18,791	3,027,225

第68期(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					固定資産圧縮 積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	464,817	557,563	557,563	24,500	113,071	1,958,311	2,095,883
当期変動額							
剰余金の配当						△81,718	△81,718
当期純利益						729,923	729,923
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	464,817	557,563	557,563	24,500	113,071	648,205	648,205
当期末残高	464,817	557,563	557,563	24,500	113,071	2,606,517	2,744,089

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△109,829	3,008,434	18,791	18,791	3,027,225
当期変動額					
剰余金の配当		△81,718			△81,718
当期純利益		729,923			729,923
自己株式の取得	△74	△74			△74
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			14,863	14,863	14,863
当期変動額合計	△74	648,131	14,863	14,863	662,994
当期末残高	△109,903	3,656,565	33,654	33,654	3,690,220

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 関係会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

① 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

② 時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品及び仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

(2) 原材料

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	30年～50年
構築物	8年～18年
機械及び装置	5年～11年
車両運搬具	4年
工具、器具及び備品	2年～6年

(2) 無形固定資産

① 自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

② 市場販売目的のソフトウェア

見込販売数量に基づく償却額と見込有効期間(3年)に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を償却する方法によっております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

① 一般債権

貸倒実績率法によっております。

② 貸倒懸念債権及び破産更生債権

財務内容評価法によっております。

(2) 製品保証引当金

販売済製品の無償補修費の支出に備えるため、過去の実績率を基礎にして算出した保証期間内の無償補修費の見込額を計上しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(単体簡素化に伴う財務諸表等規則第127条の適用及び注記の免除等に係る表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第80条に定めるたな卸資産の帳簿価額の切下額の区分掲記または注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは次のとおりであります。

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
売掛金	237,011千円	556,941千円
未収入金	8,722千円	2,807千円
1年内回収予定の関係会社長期貸付金	— 千円	13,520千円
立替金	26,448千円	43,892千円
買掛金	112,526千円	147,198千円
未払金	1,189千円	1,235千円

※2 担保資産及び担保付債務

担保に供されている資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供されている資産

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
現金及び預金	144,122千円	— 千円
受取手形	112,175千円	444,514千円
建物	826,078千円	761,389千円
土地	1,518,134千円	1,518,134千円
投資有価証券	852千円	784千円
計	2,601,363千円	2,724,823千円

担保付債務

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
短期借入金	1,170,000千円	1,560,000千円
1年内返済予定の長期借入金	208,324千円	164,944千円
長期借入金	305,031千円	313,447千円
計	1,683,355千円	2,038,391千円

3 コミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。事業年度末におけるコミットメントに係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
借入実行残高	— 千円	— 千円
差引額	500,000千円	500,000千円

(損益計算書関係)

- ※1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度約24.2%、当事業年度約24.0%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度約75.8%、当事業年度約76.0%であります。

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	第67期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	第68期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
減価償却費	30,765千円	24,556千円
貸倒引当金繰入額	△200 "	19,194 "
退職給付費用	15,223 "	15,172 "
製品保証引当金繰入額	57,000 "	58,000 "
給与手当	253,140 "	248,096 "
研究開発費	294,355 "	484,756 "

- ※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	第67期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	第68期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
工具、器具及び備品	— 千円	28千円

- ※3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	第67期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	第68期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
建物	1,029千円	— 千円
構築物	755千円	— 千円
機械装置	1千円	— 千円
工具、器具及び備品	61千円	83千円
ソフトウェア	3,058千円	— 千円
計	4,906千円	83千円

- ※4 各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	第67期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	第68期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
営業取引による取引高		
売上高	129,584千円	393,125千円
仕入高	530,385千円	582,688千円
その他の営業取引高	285千円	1,508千円
営業取引以外の取引による取引高		
受取利息	554千円	962千円
受取配当金	5,000千円	5,000千円
受取手数料	6,600千円	6,600千円
受取賃貸料	10,567千円	10,567千円

- ※5 関係会社株式評価損の内容は次のとおりであります。

第67期(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

第68期(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

関係会社株式評価損は、IMV (THAILAND) CO., LTD. の株式に係る評価損であります。

(有価証券関係)

第67期(平成25年9月30日)

子会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式158,746千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

第68期(平成26年9月30日)

子会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式56,106千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

なお、当事業年度において、子会社株式102,639千円の減損処理を行っております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(1) 流動資産

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
繰延税金資産		
たな卸資産	19,960千円	16,677千円
貸倒引当金	415千円	6,794千円
未払賞与	44,553千円	50,749千円
未払法定福利費	10,529千円	11,647千円
未払事業税	14,568千円	28,065千円
未払事業所税	5,129千円	4,609千円
製品保証引当金	21,546千円	20,532千円
未払金	6,611千円	1,242千円
その他	— 千円	3,708千円
合計	123,315千円	144,027千円

(2) 固定資産

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
繰延税金資産		
土地	12,644千円	12,644千円
投資有価証券	6,706千円	6,706千円
関係会社株式	— 千円	36,334千円
長期末払金	62,137千円	62,137千円
有形固定資産	42,209千円	46,272千円
資産除去債務	11,302千円	11,462千円
その他	39千円	39千円
小計	135,039千円	175,597千円
評価性引当金	△92,790千円	△129,284千円
合計	42,248千円	46,312千円
繰延税金負債と相殺	△42,248千円	△46,312千円
差引	— 千円	— 千円

(3) 固定負債

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
繰延税金負債		
圧縮積立金	△67,273千円	△67,273千円
その他有価証券評価差額金	△2,949千円	△10,153千円
資産除去債務	△5,201千円	△4,742千円
合計	△75,424千円	△82,168千円
繰延税金資産と相殺	42,248千円	46,312千円
差引	△33,175千円	△35,856千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第67期 (平成25年9月30日)	第68期 (平成26年9月30日)
法定実効税率 (調整)	37.8%	— %
交際費等永久に損金に算入されな い項目	0.7%	— %
評価性引当金の増減	0.0%	— %
受取配当金	△0.3%	— %
住民税均等割	0.2%	— %
役員報酬	1.9%	— %
試験研究費控除	△4.1%	— %
その他	△0.5%	— %
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	35.7%	— %

(注) 第68期は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年10月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については前事業年度の37.8%から35.4%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が9,908千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)
有形固定資産						
建物	829,324	4,351	—	69,705	763,969	902,116
構築物	40,736	—	—	5,382	35,354	94,791
機械及び装置	14,334	461	88	3,918	10,789	131,619
車両運搬具	186	1,158	—	808	536	2,261
工具、器具及び備品	206,426	109,379	1,463	99,201	215,142	910,151
土地	1,518,134	98,163	—	—	1,616,297	—
建設仮勘定	—	166,690	104,276	—	62,414	—
有形固定資産計	2,609,143	380,204	105,827	179,015	2,704,503	2,040,940
無形固定資産						
ソフトウェア	16,553	13,715	—	6,180	24,088	119,735
電話加入権	3,048	—	—	—	3,048	—
無形固定資産計	133,156	13,715	—	6,180	146,871	119,735

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

土地	東京テストラボ上野原サイト	98,163千円
工具、器具及び備品	K125/SA18M	50,472千円
工具、器具及び備品	J240/HV複合機	22,286千円

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品	TS-2000-5H/C	1,379千円
-----------	--------------	---------

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,100	19,194	1,100	19,194
製品保証引当金	57,000	58,000	57,000	58,000

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 http://www.imv.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | |
|-----------------------------------|--|-------------------------------|--------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類
並びに確認書 | 事業年度
(第67期) | 自 平成24年10月1日
至 平成25年9月30日 | 平成25年12月24日
近畿財務局長に提出 |
| (2) 内部統制報告書
及びその添付書類 | | | 平成25年12月24日
近畿財務局長に提出 |
| (3) 四半期報告書、
四半期報告書の確認書 | 第1四半期
(第68期) | 自 平成25年10月1日
至 平成25年12月31日 | 平成26年2月14日
近畿財務局長に提出 |
| | 第2四半期
(第68期) | 自 平成26年1月1日
至 平成26年3月31日 | 平成26年5月14日
近畿財務局長に提出 |
| | 第3四半期
(第68期) | 自 平成26年4月1日
至 平成26年6月30日 | 平成26年8月8日
近畿財務局長に提出 |
| (4) 臨時報告書 | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項
第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)
の規定に基づく臨時報告書 | | 平成25年12月25日
近畿財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年12月19日

I MV株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井 上 嘉 之 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西 方 実 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているI MV株式会社の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、I MV株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、IMV株式会社の平成26年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、IMV株式会社が平成26年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成26年12月19日

IMV株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	井	上	嘉	之	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西	方	実		Ⓜ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているIMV株式会社の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの第68期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、IMV株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年12月22日
【会社名】	IMV株式会社
【英訳名】	IMV CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡本 二郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) IMV株式会社東京営業所 (東京都港区浜松町二丁目1番5号 クレトイシビル4階)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長 岡本二郎は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成26年9月30日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。なお、連結子会社2社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていない。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね3分の2に達している3事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象とした。

さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを、財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加している。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

4 【付記事項】

該当事項なし。

5 【特記事項】

該当事項なし。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の2第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年12月22日

【会社名】 I M V株式会社

【英訳名】 I M V C O R P O R A T I O N

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡本 二郎

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 大阪市西淀川区竹島二丁目6番10号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
I M V株式会社東京営業所
(東京都港区浜松町二丁目1番5号 クレトイシビル4階)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長岡本二郎は、当社の第68期(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。